

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：53401

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13209

研究課題名(和文) 宇久町の方言と文献による日本語史研究

研究課題名(英文) Study of the Japanese Language History Based on Ukumachi Dialect and Literature

研究代表者

門屋 飛央 (Kadoya, Takateru)

福井工業高等専門学校・一般科目(人文系)・准教授

研究者番号：60805878

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、宇久町方言の記述を行い、日本語史研究に寄与するものである。2019年度は調査を行うことができた。2020年度から2022年度は、新型コロナウイルス感染対策のため、実際に現地に赴いて調査を行うことはできなかった。そのため、その間は、オンラインによる方言調査を行った。本研究では、宇久町方言の「進行」の形式の異形態に関する調査と、行為指示表現に関する調査を行い、論文にまとめた。行為指示表現は、宇久町近隣の島である藪路木島の方言の調査結果もまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、主たる期間に、新型コロナウイルス感染拡大が起こった。そのため、現地での調査は断念せざるを得なかった。その代わりに、すでに調査した内容をまとめることで、方言研究を続行した。さらに、オンラインによる方言調査を行った。オンラインによる調査の成果を論文にまとめた。

本研究では島嶼部の方言を対象としているため、感染対策にはより慎重にならなくてはならない。面接調査によって得られる成果が大きいのはもちろんだが、オンラインによる調査でも成果を出した。このことは、研究を進めていくうえで大きな進歩であるといえる。

研究成果の概要(英文)：This study describes Ukumachi dialect and contributes to the study of the Japanese language history. In 2019, I was able to conduct surveys. From 2020 to 2022, I was not able to actually go to the field and conduct surveys due to measures against the COVID-19. Therefore, during that period, I conducted dialect surveys with the online. In this study, I investigated the variation of the form of "progression" and the imperative expressions in the Ukumachi dialect. As for imperative expressions, I also summarized the results of a survey of the dialect of Yaburokisiima, an island near Ukumachi.

研究分野：日本語学

キーワード：日本語学 五島列島方言 日本語史

1. 研究開始当初の背景

方言を通して日本語史をみるという研究は、数多くの研究がなされてきた。これらの研究は、各地に残る方言や、その方言資料を通して、中央語を中心とした一般的文献からだけではわからない日本語の歴史をより深く描き出す試みである。ただし、これらの研究が方言を研究するうえで重視していたものは、やはり中央語であると思われる。これらの研究は、当該地域で話されている方言の言語体系自体を明らかにするのではなく、その方言を通して中央語の研究を豊かにすることに主眼があった。

これまでの方言研究は、自分の興味がある現象だけを扱うため、その方言における他の現象は扱われなかった。また、先行研究で調査されている地域の方言を、再調査することで現象の記述を深めていく研究も多かった。このような研究のあり方は、複数の研究者がひとつの現象ばかりを研究して、その方言での他の現象は扱われないことにつながる。

近年の方言研究では、その方言の現象を、その方言の言語体系に結び付けて記述されるようになってきている。方言は、共通語と異なるひとつの言語体系を持っている。これらの方言の集合体が、日本語である。したがって、真の意味で日本語史を研究するためには、方言の言語体系を記述し、その成果を中央語や他の方言の言語体系と対照していくことが必要である。しかし、これまでの方言研究の成果では、中央語ほどに、ひとつの方言の言語体系を描き出すことはできておらず、その記述も少ない。

方言の言語体系は、日本語史研究に通方言的な視点を持たせることができる。その視点をもって、日本語史を重層的に考察することが、日本語史研究に新たな知見をもたらすと考える。本研究では、長崎県の五島列島の宇久町方言を包括的に記述することで、その研究のモデルを示す。

また、五島列島の文庫の整理・調査を行うことで、方言に言及された資料を探す。これらの歴史的な資料を調査し、目録を作成することは、文学や史学の研究の一助になると考える。

2. 研究の目的

本研究は、方言を包括的に記述することで、中央語とは異なる日本語をみるものである。広く九州方言全体を考察するうえでも、五島列島方言は重要な位置を占めている。しかし、この地域の方言はこれまであまり研究がされてこなかった。本研究では、五島列島方言の包括的な記述、五島列島内の文庫の整理・調査を行い、日本語史を重層的に考察するものである。これからの日本語史研究は、各地の方言の言語体系の記述を増やしていかなくてはならない。九州地方の長崎県五島列島方言を包括的に記述することで、本研究のモデルを示す。

本研究では、方言の包括的な記述に加えて、当該地域の文庫の整理・調査を行う。長崎県には、『長崎歳時記』(1797年成立)、『筑紫方言(つくしことば)』(1801年前後か化政期頃成立)、『筑紫紀行』(1802年刊)をはじめ、近世期の長崎方言に言及がある資料がいくつも存在する。同様の資料が五島列島にもある可能性がある。実際に宇久島神社などには、多くの文献が現存するものの、未整理のままになっている。五島列島各地に文庫は存在するものの、これまで調査されていない文庫が多い。これらの歴史的な資料を調査し、目録を作成することは、文学や史学の研究の一助になると考える。

3. 研究の方法

まずは宇久町の記述文法書を完成させる。平郷の記述文法書の完成後は、平郷以外の郷の方言を記述する。平方言を軸として、島内の方言差も含めた包括的な記述文法書を完成させる。

宇久町には、壇ノ浦の合戦で敗れた平家盛が、宇久島に流れ着き、藩を興したという伝説がある。後にこの藩は、同じ五島列島の福江島に移り、五島藩となって、五島列島全体を治めたという。宇久島神社の神浦月川神職家古文書には、近代以前の神事関係の資料がみられる。他の文庫にも近代以前の資料が多くあると考えられ、それらの資料を整理する。前述の古文書のほか、山田家古文書など、宇久島内にある文庫を網羅的に調査した、文庫目録を完成させる。

4. 研究成果

平方言の記述文法書は2019年度に完成した。しかし、本研究の主たる期間に、新型コロナウイルス感染拡大が起こった。そのため、現地での調査は断念せざるを得なかった。その代わりに、すでに調査した内容をまとめることで、方言研究を続行した。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、実際に現地に赴いて方言調査を行うことができなかった。しかし、前年度に調査した当該方言の/-wor-/について、用例を精査検討し、さらに考察を進めることができた。その成果を、日本方言研究会第110回研究発表会にて発表した。発表題目は、「長崎県佐世保市宇久町平方言における「進行」の/-wor-/の語形変化」である。第110回研究発表会は中止となったため、第111回研究発表会にて質疑応答を行っている。その

研究発表での質疑応答を踏まえ、これらを論文にまとめ、『語文研究』第 130 号に投稿した。論文名は、「長崎県佐世保市宇久町平方言の『進行』の『オル』」である。

2021 年度も、新型コロナウイルス感染対策のため、実際に現地に赴いて調査を行うことはできなかった。そのため、オンラインによる方言調査を行った。オンラインによる調査の成果を論文にまとめ、『語文研究』第 133 号に投稿した。論文名は「佐世保市宇久町平方言の『動詞否定形+カナ』による行為指示」である。当該地域では、目上の人に対して「電話せんカナ」(電話してください)のように、動詞否定形にカナをつけた形式によって行為指示を行う。この形式の用法や由来について考察を行った。平方言では、この「カナ」を使用し、聞き手への働きかけを弱め、配慮している。

本研究では島嶼部の方言を対象としているため、感染対策にはより慎重にならなくてはならない。面接調査によって得られる成果が大きいのはもちろんだが、オンラインによる調査でも成果を出した。このことは、研究を進めていくうえで大きな進歩であるといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 門屋 飛央	4. 巻 130/131
2. 論文標題 長崎県佐世保市宇久町平方言の「進行」の「オル」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 語文研究	6. 最初と最後の頁 413～402
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/4777920	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 門屋飛央	4. 巻 133
2. 論文標題 佐世保市宇久町平方言の「動詞否定形+カナ」による行為指示	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 語文研究	6. 最初と最後の頁 73～59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 門屋飛央	4. 巻 -
2. 論文標題 長崎県小値賀町敷路木島方言の/(-a)-Ns-/を用いた行為指示について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 坂口至教授退職記念日本語論集	6. 最初と最後の頁 186-201
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 門屋飛央
2. 発表標題 長崎県佐世保市宇久町平方言における「進行」の/-wor-/の語形変化
3. 学会等名 日本方言研究会 第110回研究発表会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------